

世界最大の鳥ダチョウ

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

ダチョウ(駝鳥)はアフリカ大陸だけに住んでいる、現在では最大の鳥です。

体の大きさは2メートル以上。体重は100キロ以上です。もちろん飛ぶことはできませんが、代わりに走るのが得意で、最高時速は70キロといますから、びっくりですね。

ところでダチョウのオスとメスの見分け方をご存じですか?実は羽の色の違いが決め手になります。オスの羽は黒く、翼の先と尾のところは白い色をしています。それに対してメスは、灰色がかった褐色で、全体に地味な感じですよ(写真1)。ただし幼いヒナや若いうちは、オス、メスとも同じような地味な色です。

野生の生き物は外敵から自分で身を守ら



写真1 オスの羽は黒色、メスの羽は灰褐色

なければ、生きていくことができませんが、幼いうちは枯れ草の中で目立たずに身を隠すことができるように、黒い色と茶色が混ざった保護色をしているのでしょう。

アフリカの草原では、つがいでも仲良く食事をしているダチョウに出会うことが少なくありませんが、ダチョウの主食は草や昆虫など。長い首を器用に曲げたり伸ばしたり、忙しそうに顔を動かして、せっせと食料採集に励んでいます。

ダチョウの卵の大きさも、ケタはずれです。厚さ数ミリの、丈夫な殻に守られた卵の直径は、10数センチもあります。ダチョウの卵の中身は、1個で鶏卵のおよそ25個分から30個分に相当します。

そんな大きな卵を、ダチョウは1度に10個から時には30個も抱いてヒナを孵すのですから、大仕事です。

辛抱強く1カ月半ほど抱卵して、ようやく生まれたヒナたちは、賑やかというよりも、騒々しいほど。おまけにじっとしていませんから、親たちはひとときも気の休まる暇がないほど…。

現在、東アフリカのケニアとタンザニアには、次の2種類のダチョウが住んでいます。

オスの首と脚の色で見分けますが、肌色から赤味がかった色をしているのが、マサイダチョウ。灰色から青色をしているのが、ソマリダチョウです。いずれも繁殖期にはその特徴が非常にはっきりと現われます。

ダチョウとといいますと、1度だけ驚ろかさされたことがあります。

フラミンゴの群生で世界的に有名な、ケニアのナクル湖を訪れた時の出来事です。

アフリカの国立公園や動物保護区内では、安全上の理由から、原則として勝手に車から降りることは、禁止されていますが、ナクル湖畔では、例外的に車から降りて、徒歩で湖畔まで近づくことができます。私もカメラとフィルムを肩に、フラミンゴの撮影をしようと、数百歩歩み寄り、シャッターを切り、しばらくしてふと振り返りましたところ、そこには何んと1羽のメスのダチョウが停んでいたのです(写真2)。

ライオンやヒョウのような肉食獣とは危険度が違いますが、それでもダチョウの“自慢の足”で蹴られでもしたら、大怪我をしないとも限りません。相手に背中を見せずに、少しずつ移動し、安全な距離まで逃げた時は、さすがにホッと胸をなでおろしました。

古くから羽を帽子飾りやストールとして加工したり、皮でベルトや靴、ハンドバックなどを作ったりと、さまざまな形で利用されているダチョウですが、最近では食用にダチョウを飼育しているところも、少なくありません。南アフリカでは、観光施設のひ

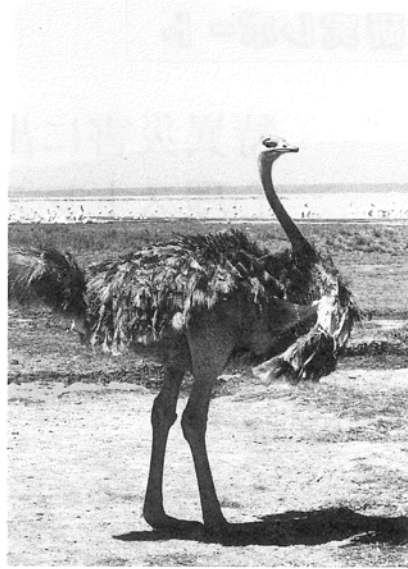


写真2 メスダチョウとの遭遇にビックリ

とつとして、ダチョウ牧場があり、訪れる観光客にダチョウの卵のオムレツや、ステーキを供しています。またダチョウの背に乗る“乗馬”ならぬ“乗ダチョウ”も実施しています。

日本国内でも、少しずつですが食用を目的にダチョウを飼育するところが増えているようですが、食べた人たちの感想は「固いけれど牛肉のよう」という人や、「鯨肉に似ている」という声も。

食肉業者は「ダチョウは高タンパク、低カロリーのとてもヘルシーな肉です」と、PRにけん命です。

(写真は平岩道夫&雅代事務所提供)

〈ダチョウひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国(ケニア、タンザニア、ウガンダなど)で話されている公用語のスワヒリ語で、ダチョウはブニと呼

ばれている。

▶ダチョウは滅多に鳴き声を出さないが、ごく稀に、オスが腹の底から太い声を出すことがある。